（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第六小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	友達との関わりの中で児童が自ら考え、表現できるような指導内容の工夫を図る。ＩＣＴ機器などの活用を通して、個別学習への深まりをめざす。	中間評価	各学級でのＩＣＴ機器の活用が進んでいる。児童一人ひとりに最適な課題を設定し、解決できるよう日々取り組んでいく。	最終評価	
環境作り		主体的に児童が学び合う場と機会の設定を行うとともに、特別支援教育・ユニバーサルデザイン・個別学習の視点を取り入れた環境作りを行う。		ＩＣＴ機器等を活用しながら、主体的に学んでいく児童を育成している。今後も児童にとって学びやすい環境を整えていく。		

■　学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）
1	国語	学ひらがな、かたかなについては９割程度の児童が習得し、支障なく読み書きできているが、助詞や新出の漢字については、習得が不十分な児童が多い。 学物語文、説明文など、多様な文章を読み、内容を理解できる。	・平仮名の形や発音は、定着しているが、促音・拗音や鍵かっこの使い方の習得に課題がある。 ・自分の気持ちを文として表現することに困難を感じることが予想される。 ・片仮名の定着に時間がかかっている。 ・読解力は、伸びてきているが、登場人物の気持ちを想像し文章等で表現する力が、ついていない。	・文字の正確な習得のために、プリントや東京ベーシック・ドリルを繰り返し、促音・拗音の使い方を少しずつ習得させていく。 ・発表の機会を多くとったり、感想や手紙を書いたりするなど自己表現の幅を広げるように指導をしていく。 ・場面ごとの状況をつかませ、登場人物の気持ちや行動をより深く表現する読み方を、タブレット端末の録画機能を活用して工夫させる。	
	算数	学10 までの加法・減法については、多くの児童が習得し、定着している 学長さ、水の体積など、具体物の実測を通して比較することはできるが、任意単位に換算することが苦手な児童がいる。	・計算方法は定着しているが、時間がかかる児童もいる。 文章問題や考えたことの説明に難しさを感じる児童がおり、思考力が課題になっている。	・プリントや計算カード、東京ベーシック・ドリルで繰り返し練習しながら、素早く正確に解くことができるように指導をする。 ・既習内容から発展させ、立式できるように、問題文の意味を丁寧に説明をし、理解につなげていく。	

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学１年生で学習した漢字や片仮名の習得は、８割程度できているように感じるが、促音や助詞など、言葉の使い方の確実な取得はまだ達成できていない児童が多い。 学作文やスピーチなど、自分の思いを言葉にして表現することに抵抗を感じることなく学習に取り組む様子が見られる。	・促音や助詞など、言葉の使い方の確実な取得に課題がある。 ・新出漢字が多いため、習得に時間がかかることが予想される。 ・自分の思いを文章に表すことに抵抗感はないが、順序に気を付けて分かりやすく書く力を伸ばす必要がある。	・ノートや小テストなどを使って繰り返し漢字練習に取り組ませ、習熟を図る。 ・日記や作文など、自分の経験や思いを書く活動を多く取り入れ、順序に気を付けて書くことができるようにさせる。また、言葉の使い方についても指導する。	・漢字の読みはしっかりと身に付いているが、正しい書き順で正確な漢字を書くことには全体的に課題があるので、繰り返し練習や小テストにより定着を図る。 ・書きたい思いが増し文章量も増えたが、順序に気を付けるという点には課題があるので、接続詞の指導を含め継続した指導を行う。	
	算数	学基本的なたし算、ひき算の計算方法は、ほとんどの児童は理解している。 学繰り上がりや繰り下がりのある計算に間違いが多い。 学文章題では、立式をすることはできるが、図や言葉を使っての説明は苦手意識のある子が多い。	・計算の正確性に課題がある。 ・図や言葉を使っての説明に苦手意識がある。そのため、計算の過程や立式の考え方を曖昧にさせないように意識させる必要がある。	・ドリルやプリント学習により、繰り返し計算問題に取り組ませ、正確に解く力を伸ばす。 ・図や言葉を使って自分の考えをノートに書く活動を、年間を通して行わせる。また、書いたものを他と共有し、様々な考えに触れさせる。	・プリント学習に加え、九九カードやタブレット端末による繰り返し学習を行い、さらなる定着を図る。 ・自分の考えをノートに書くことに少しずつ慣れ、図や言葉などを使って表現しようとする意欲が高まった。今後は、適切な言葉や図で考えを表現したり共有したりできるように指導していく。	
3	国語	調「基礎」は、区平均値よりも 0.5 ポイント上回った。「漢字の読み書き」は正答率が９割４分に達した。漢字テストに繰り返し取り組んできたことが効果的であったと考える。一方で、「書くこと」に関して正答率が目標値を大幅に下回っている。	・新出漢字の書き取りが不十分である。 ・聞かれている内容に対し、自分の考えや叙述を書き出すことについて、苦手意識をもたせないよう工夫する必要がある。	・確認テストを繰り返しながら漢字の習熟を図る。 ・問題を解く際は、一つひとつ問われていることを確かめながら授業を進めていく。 ・日頃から話題の中心が何かを考えながら、文章を読んだり話を聞いたりさせる。 ・家庭学習として、日記や調べ学習など「書く」ことを意識させる課題に取り組ませる。	・漢字が習熟できていない児童がいるので、確認テストを継続していく。 ・問われていることや話題の中心を捉えられていない児童が多いため、問題文にライン引かせたり、聞き取りメモを書かせたりするなど、焦点化していく。 ・１０月より「書く」課題を毎週末に家庭学習として出すことで、継続指導していく。	

	算数	調「基礎」「活用」共に、目標値を下回った。特に「かけ算」の問題では区平均値よりも6.3ポイント下回った。区学力調査以降に九九合格者も増えており、改善がみられている。	・基礎計算であるたし算、引き算、かけ算の計算ミスが多い。 ・文章題において、聞かれている内容を読み取れていないことや単位を書き間違えることが多い。 ・１度解いた問題に対する解き直しが少ないので、積極的に声をかけるようにする。	・計算問題を繰り返し取り組み、計算力を高める。また、授業の初めには、四則計算のタイムトライアルなどを行うことで、さらなる計算力の向上を目指す。 ・単位の理解においては、実際に測るなどの体験学習を増やし、実感を伴う理解へ結びつける。 ・確かめ算等の活用を進め、解き間違いを減らす。	・「かけ算九九」を覚えちがいしているのか、かけ算・わり算を行う際に間違ってしまう児童がみられる。その時々に振り返り、確認をしていく。 ・自分が話したいことなどのoutputは得意でも、読んだり聞いたりして内容をとらえ、理解する（input）ことを苦手とする様子が見られる。聞くことの指導を、より工夫していく。 ・テスト直しの場をより確実に設定し、再チャレンジや解き直しができるようにする。	
4	国語	調同一集団における成長の伸びは昨年度に比べ 0.3 ポイント低くなった。特に、活用の項目は、区の平均と比べても 9.3 ポイント低い。基礎力は区の平均をわずかではあるが上回っている。特に低かった領域は、「情報の扱いに関する事項」と「読むこと」である。以上の点から、適切に文章を読み取ることができていないと考えられる。また、極端に学力の身に付いていない児童は見られないが、集団全体として低い傾向にある。よって引き続き、文意を確かめながらていねいに読み取っていくことを意識させたい。	・場面の様子を捉えて読むことや、書くことの中心を明確にした作文、さらに話題にそって意見と理由を考えて話すこと等、「読む・書く・話す」力の向上を目指す。 ・毎日の反復練習や、辞書を使った意味調べなどを行い、漢字を覚えるだけでなく、日常生活で自然に使えるようにする。	・授業では、根拠を明らかにして「読む」「書く」「話す」ことを習慣付けていく。授業中の問い返しや、友達からの質問の場を設定したり、作文などを読み合ったりすることで他者理解や互いの良さを取り入れて学び、自分の考えと比較したり関連付けたりする学習を繰り返す。 ・毎日のドリルやノートを使っての反復練習、辞書を積極的に活用し、漢字を使うことへの意識を高めていく。	・「読む力」向上のため、接続詞や文末表現に着目させ、筆者の主張や考えの根拠を明らかにする方法を継続的に指導していく。 ・文章から、重要な語句を探したり、必要な個所をつなぎ合わせて要約文を書いたりすることを通して、「読む力」「書く力」の向上に努める。 ・都道府県名を含めた漢字学習は、書き取り練習とテストを交互に行いながら、反復練習を継続していく。	
	算数	調同一集団における成長の伸びは昨年度に比べ 0.5 ポイント高くなった。ポイントが上がった要因としては、３年次からの少人数による個に応じた指導や基礎力を高めるための反復練習の継続であると考えらえる。一方で、正答率が極端に低い児童が見られる。今後は、学習があまり得意ではない児童への学力定着をより重点的に行うことも必要である。 ・課題であった計算ミスについては適宜意識して指導することで、減ってきている。	・全体的な正答率は、区平均と同等である。計算の仕方は、理解しているものの、計算ミスが目立つ。単位の理解においては、復習が必要である。 ・かけ算、わり算の筆算では、位取りの理解が不十分だったり、瞬時に九九が出てこなかったりと、反復練習が必要である。	・問題を解く道筋を表現し合う取り組みに力を入れる。答えを出すまでの考え方を明確にし、友達の意見と自分との比較をすることを通して、多様な考え方を学べるようにする。また、基礎的な計算処理においても継続して取り組んでいく。 ・単位の理解においては、実際に測るなどの体験学習を増やし、実感を伴う理解へ結びつける。 ・計算問題に繰り返し取り組み、計算力を高める。３年生に引き続き、授業内で、四則計算のタイムトライアルなどを行い、計算力の向上を目指す。	・自分でやろうとする態度を大切にし、友達とのペア学習などを取り入れ、学習内容の理解を深めていく。児童一人一人のがんばりを認め、励まし、技能の習得を丁寧に進めていく。 ・各単元、授業において、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるような学習課題・問題の提示と、数学的活動の工夫を図る。	
5	国語	調令和２年度の新宿区学力定着度調査の結果では、「文章を書く」内容が目標値よりも 12.7 ポイント低い。４年からコース別指導を始めたが、成果がなかなかでなかったようだ。コース別指導といっても、もともとの児童数が多いので少人数になる場面が少なかったことが原因の一つであると考える。今後はさらに個に応じた指導ができるよう、指導方法の改善が必要である。	・原稿用紙の使い方や、話題にそった文章を書くことに課題が見られる。 ・漢字の習得が不十分であるため、日ごろから漢字を使うよう指導していく。	・週末に作文の課題を出し、文章を書くことに慣れさせる。また、翌週には学級内で作文を読み合うことで、お互いの作文の良さを共有する。 ・語彙を増やすために、辞書を使う機会を増やす。 ・新出漢字の定着を図るために、タブレット端末を用いた繰り返し学習を行う。	・自分の思いを適切な言葉を用いて表現できるように、書く機会や発表の機会を増やしていく。 ・手元に辞書を置き、分からない言葉は随時調べるようにすることで、言葉に対して興味をもつ児童が増えるよう指導していく。 ・漢字の小テストを定期的に行うことで、漢字の習熟に努める。	
	算数	調令和２年度の新宿区学力定着度調査の結果では、わずかではあるが、伸びが見られた。特に「変化と関係」の領域での成果が大きかった。一方「主体的に取り組む態度」については目標値に達していなかった。「わかる・できる」という実感が、学ぶ意欲につながるような授業改善が必要だと考える。	・主体的に取り組む態度が低い児童もいる。 ・割り算の考え方の定着度は少しずつではあるが、上がってきているが、まだ課題が見られる。	・個の課題に取り組む機会を充実させるために、間違え直しの時間を十分に確保したり、タブレット学習を積極的に取り入れたりする。 ・既習事項を忘れてしまわないように、授業前のわずかな時間を使い確認をしていく。	・授業の初めに、前時の振り返りやその時間に使う既習事項の確認の時間を設定し、その時間に習得したいことを明確にしていく。そうすることで自らの目標をもたせ、その時間の課題を自分事とし、自主的に解決しようとする意欲付けをしていく。 ・単元の学習内容が理解できている児童に対して、発展的な算数の力をつけ、表現力・思考力の向上を図る。	
6	国語	調「基礎」は、ほとんどの項目で目標値を超えており、「漢字の読み書き」は目標の８割に達した。昨年度より辞書の活用や、漢字テストに繰り返し取り組んできたことが効果的であったと考える。「読み取る力」も前回よりも点数が上がっている児童が多い。一方で、「書くこと」に関してのみ、正答率が目標値を下回っている。点数を確認すると時間の配分が上手くできず、問題に取り組めていないことが考えられる。	・主語、述語、修飾語などの使い方を知り、文を構成する力をつける必要がある。 ・文章の中からキーワードを探したり、答えの部分を見つけたりする方法が理解できていない児童もいるので、指導・助言を続けていく。	・タブレット端末などを活用し、意欲を高めながら「書く」内容について指導していく。ワークシートやノート等を活用し、書くことを意識した活動を進め、書く力を高める。 ・主語、述語、接続詞や助詞など、読み取り方や使い方に慣れるために、繰り返し家庭学習で定着を図る。	・授業でタブレット端末を活用した「やまなし」のレポート作成、日本の文化を発信するためのプレゼン資料作りなど、意欲的に「書く」学習を行った。 ・タブレット端末を活用した家庭学習で、主語、述語、接続詞や助詞などの読み取り方や使い方についての内容も網羅していく。	

	算数	調「基礎」「活用」共に、目標値を超え、特に、「分数の計算」の正答率は８割を超えていた。昨年度、繰り返して多くの練習問題に取り組んできたことで、正確な計算力が身に付いている。一方で、「図形」に関しての正答率が目標を下回っている。	・関心・意欲・態度は高いものの、それが学力の定着や向上につながっていない状況である。既習事項は理解しているにも関わらずケアレスミスをしている児童が見られる。根気強く、正確に解き進める力を身に付けさせたい。また、既習内容の理解が十分でない児童も見られる。習熟度別や個々の課題学習を生かして、つまずきを解消する必要がある。	・「図形」領域については、児童が興味・関心をもつ課題や活動の設定を行うと共に、学習内容の定着を図るための家庭学習や反復学習に取り組ませる。 ・既習事項を忘れていることもあるため、学習してから時間が経った内容も、復習の機会を設けて、知識として定着できるよう、ＩＣＴ機器などを活用しながら指導を続ける必要がある。	・集中して取り組むことで、殆どの児童が問題を解決できた。時に戸惑ってしまったり、滞ってしまったりした児童にも、自主性を大切にした働きかけで、自分で解決に向かう力を育成するように待ちの姿勢を大切にする。 ・スラスラと解答を出した児童には、その方法を選択した判断理由等を交流させたり、より筋道立てた表現、他の児童に伝わる発表を求めたりして、思考・判断・表現力の向上を図る。	
音楽	・全学年、リズム奏や楽器の演奏、音楽づくりについて意欲的に取り組む様子が見られる。学年に応じて楽曲の曲想と旋律の特徴を結び付けて考えることが徐々に身に付いてきている。 ・昨年度、合唱については指導できなかった。児童は楽器を演奏することは大変興味をもって取り組んでいる。しかし、曲想をイメージしたり、思いを表現するための技能はまだ不十分である。基本的奏法を身に付け、互いの演奏を聴き合う力を付けることが課題である。		・音楽づくりや合奏の学習を通して、基本的な楽器の演奏の仕方や、リズム等の音楽の仕組みが理解できるようにする。 ・小グループでの活動や演奏発表の場を設定して、児童一人一人が楽曲の曲想や演奏の工夫について意見をもち、より良い演奏を目指せるようにする。 ・様々な音楽の学習を経験することで、音楽活動の基盤となる基本的な力を身に付けられるようにする。	・演奏するために必要な技能を学年に応じて丁寧に指導するとともに、リズム譜や楽譜の読み取りについても理解できるよう指導する。 ・友達と音を合わせる楽しさを味わわせる学習内容を設定し、音楽を通して友達と関わることを大切にしながら、友達とアイディアを出し合い、自分の演奏に生かせるようにする。 ・歌唱、リコーダー、鍵盤ハーモニカの学習を行うことはコロナ禍においては、難しいが、各学年の発達段階に応じて、音楽づくり、鑑賞、様々な楽器を使用した合奏等に取り組ませることで、音楽的な基礎力を付けるようにする。	・各学年に応じてリズムアンサンブルや、リズムを中心にした音楽づくりに取り組んだ。リズム譜を読んだり、音符に表したりたする学習にも取り組んだ。これまであまり使用する機会のなかった楽器も経験し、奏法に付いても学習した。 ・鍵盤ハーモニカとリコーダーの学習はしていないが、みんなで学習できる楽器として、今年度はミニグロッケンを購入したので、それを使って合奏したり、高学年では２部合奏をしたりして、友達と音を重ねて演奏する楽しさや音色の美しさを感じ取ることができた。 ・今後は鑑賞の学習や、曲想と音楽的要素との関係について学習し、自分たちの表現に生かせるようにする。	
図工	・全学年、造形活動を行うことが好きで、意欲的に取り組もうとする様子が見られる。表現や鑑賞の活動に前向きに取り組み、よく考え素直に表現する力がついている子が多い。 ・表現することは好きだが、材料や場の違いを味わいながら表現を深めていくといった、追求する活動には結び付きにくい。また、手先を使っての活動、いろいろな材料や用具を活かしての活動が、今後の課題と考える。		・材料や場、友達とかかわる中で、ものづくりの楽しさを味わう。また、表現することの良さや価値を見つけ認め合えるような力を、活動を繰り返す中で身につけていく。 ・みんなでつくる難しさや協力する素晴らしさを味わう中で、「共生」できるよう互いに認めあえる児童を育成する。互いの良さや違いに気付けるようにする。	・児童の実態に合わせ「感じる－考える－関わる－表す」という流れが何度もスパイラル状に続いていくような題材を検討し、テーマ・材料・場を厳選し授業を行う。 ・「ねらい」の明確化と言葉による「振り返り」を毎授業で取り組む。考えたこと、試したこと、うまくいったことなどをはっきりさせ、習得したことが積み重なっていけるよう意識し学力の向上を行う。	・全学年、造形活動を楽しむ中で、各自で考えながら表現することができている。 ・児童同士の交流や鑑賞の時間が難しい点もあるので、タブレット端末での画像共有などを有効的に活用し、学びの場を保証する。表現と鑑賞の時間をきちんと確保することで、活動の幅を広げ、個々の表現がさらに深まるようにする。	
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況　※分量は 2 ページ以上となってもよい。